ミクロ経済学II（第8回）

平成20年度第1学期
名古屋大学経済学部
花薗　誠

不完全競争市場のまとめ

- **価格支配力：**企業数と需要の価格弾力性の増大に応じて減少。
- **価格支配力大⇒効率性の歪み大：**費用面の要因がなければ、企業数や弾力性を増大させるべき。
- ただし、研究開発投資の成果による価格支配力はある程度維持するべき（例：薬の特許、参考：エイズ薬の開発[マクミラン著書]）。

不完全競争市場のまとめ

- **寡占市場：**自らの行動を決定するために競争相手の行動を予想する必要有（戦略的意思決定）。
- **均衡の考え方：**予想を所与として最適化＋予想と現実の行動が一致。不一致なら[次の機会に]予想や行動を改訂する為、均衡状態といえない。
- **寡占市場の均衡：**各企業の取りうる戦略や情報の性質に依存して性質が異なる（クールノーVSシュタッケルベルク）。

考察：競争軽減の企業戦略

- **企業の思惑：**競争を軽減する（＝価格支配力を高め、利潤を上げる）方策はあるか？
  - 製品の差別化、ブランド確立
  - 「ロックイン効果」を狙ったお試し価格
  - ポイント割引、マイレージ戦略

⇒価格を上げても顧客が離れ難くなる方策。

- 消費者の利益？最終的な高価格は問題。
- 阿漕な戦略（談合等?）は独禁法の取締の対象。

完全競争市場の機能

- **市場メカニズム：**取引からの利益の機会があればすべて利用し尽されるため、無駄・過不足がない資源配分を自発的に実現
  ⇒効率性の達成。

- **重要な前提：**取引からの利害は取引の当事者のみが享受。取引の部外者には利害なし。

⇒取引当事者の余剰＝取引から生じる社会的余剰

外部効果と市場の機能不全

- **外部効果：**生産・消費の部外者への影響

⇒取引当事者の余剰≠取引から生じる社会的余剰

⇒当事者の自発的取引（市場取引）は、他者へ利害を無視することになり、社会的に見て無駄のある取引を誘発

- **市場の機能不全：**
  市場取引による社会的損失の発生

外部効果(外部性)の具体例

- **外部不経済効果：**
  生産・消費が部外者に与える不効用・費用
  生産：公害・環境汚染、CO_2排出、乱獲
  消費：騒音、不衛生、煙害、悪臭、CO_2排出

- **外部経済効果：**
  生産・消費が部外者に与える効用・便益
  生産：農業による緑化、know how蓄積、R&D
  消費：有益な知識・情報の蓄積

社会的費用とは？

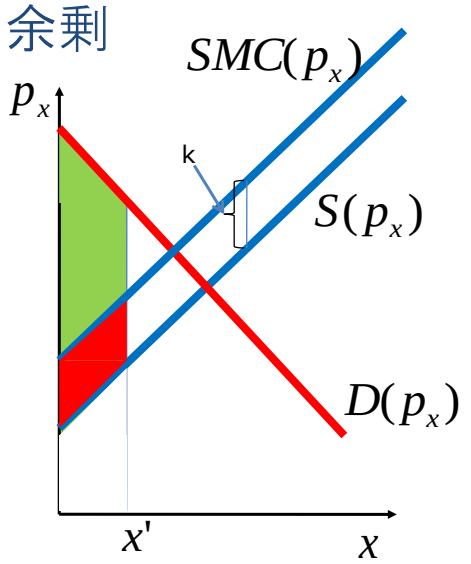
- 生産費用－外部 経済 効果 の金銭的評価
  生産費用＋外部不経済効果 の金銭的評価

- **外部経済効果の評価例：**
  知識の波及による生産費用低下
  （例：ジェネリック医薬品）

- **外部不経済効果の評価例：**
  公害による医療費の増大、健康的生活を失うことによる不効用の金銭的評価、など

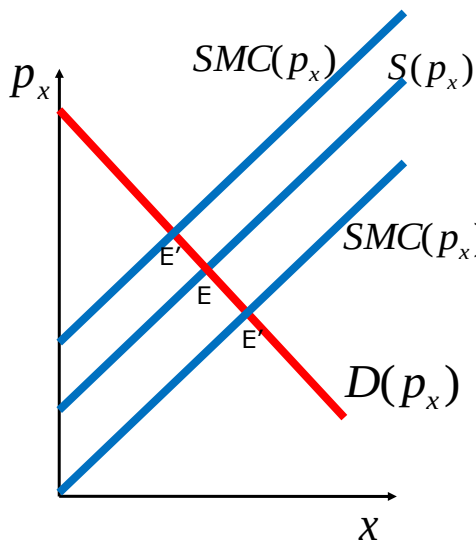
外部効果と社会的余剰

- **社会的余剰：**
  消費者余剰＋生産者余剰＋外部経済効果
- **社会的限界費用曲線：**
  生産の限界費用
  ＋追加的一単位当たりの
  外部経済効果
- 右図：限界的外部不経済効果
  ＝k.



市場の機能不全

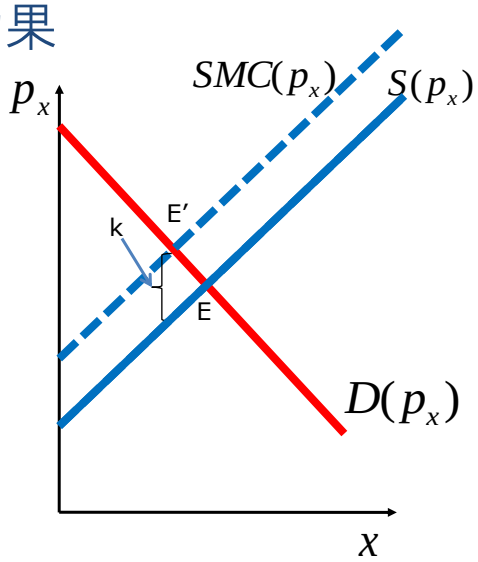
- **市場均衡：E**
  社会的余剰の最大化：E'
- **外部不経済→過剰生産**
  他者の損失を顧みないので無駄に多く取引
- **外部経済　→過少生産**
  他者に与える便益を考慮しないので、過少に取引



課税・補助金の効果

- **生産者への課税：**
  一単位当たりk円
  ⇒ 供給曲線上側へシフト
  ⇒ 供給曲線はE'で需要曲線と交わる
  ⇒ 均衡はE'
  過剰生産の解消

- **外部経済効果のケース**は、補助金を適切に出せばよい。



練習

- 需要関数D(p)=a-p,供給関数S(p)=p, 生産の外部不経済効果が一単位当たりk円であるとする。

1. 市場均衡価格、生産量を求めよ。
2. 社会的余剰を最大化する生産量を求めよ。
3. 消費者に一単位当たりの税(従量税)を課すとしていくらにすればよいか
4. 消費者に消費税(従価税)を課するとすれば何%にすればよいか？